



2008年11月8日

## 世界 YWCA への報告: 勧告6「劣化ウランの脅威」について

日本YWCA

### **第63回国連総会で、劣化ウランの影響調査を求める決議案が採択されました。**

12月2日の国連総会で、劣化ウランを含有する武器・弾薬の影響について調査を求める決議案が昨年に引き続いて、賛成多数で採択されたことを報告いたします。

決議案に賛成したのは141カ国(日本を含む)、反対は米英仏とイスラエルの4カ国、棄権はロシアなど34カ国でした。

決議案は、劣化ウランを含有する武器・弾薬の使用が人体や環境に有害な影響を及ぼすことを考慮し、(1)国連事務総長に、WHO、IAEA、UNEPなどの関係国際機関に対して、最新の劣化ウラン兵器による影響調査を実施させるように要請し、(2)特に被害を受けている国が必要な調査を行うように促し、(3)2010年の国連総会で、以上の加盟各国、関連機関による調査・報告に基づいて、劣化ウラン兵器の問題を議題とすることを求めています。

2007年の国連総会で初めて採択された、劣化ウラン兵器の被害調査を求める決議により、潘基文 国連事務総長は今年、「劣化ウラン弾使用の影響」と題する報告をまとめました。内容は加盟19カ国、WHO、IAEA、UNEPの3国際機関の見解でした。しかし、最大の被害国であるイラクからの意見の提出がなかったことは大変残念でした。

新たな報告書を作成するためには1年間では短かすぎるために、2010年の国連総会までとなりましたが、その時には対人地雷禁止条約、クラスター爆弾禁止条約締結に引き続いて、劣化ウラン弾使用禁止への大きなチャンスとしなければなりません。世界YWCAの125カ国のネットワークを生かして、特に放射能による遺伝子破壊を伴う女性と子どもへの人体へのすさまじい影響を知らせ、劣化ウラン弾使用・生産禁止に向けてのアピールを呼びかけます。

今年、日本YWCAは被爆国日本政府が国連総会で劣化ウラン弾使用禁止に向けて積極的にイニシアティブを取るように要請活動をすると共に、市民へのアピール活動を他のNGOと協力して行いました。原爆ドームの広場で行われた「キャンドル・メッセージ: BAN DU NEXT」集会の写真を添付して送ります。

(写真の説明)

ウラン兵器禁止を求める国際共同行動デーの集会: 11月16日ヒロシマ原爆ドーム前  
1000本のキャンドルで描くメッセージ「BAN DU NEXT(次は、劣化ウラン兵器禁止!)」

以上